

令和5年10月18日

お知らせ

	後楽園事務所	岡山県郷土文化財団
担当	石井・前田	信江・万城
内線	4386	
電話	086-272-1166	086-233-2505

後楽園で殿様が食べた料理を再現したレシピ集「岡山後楽園 殿様の御馳走帖」 の完成を記念し講演会や食事会を開催します

後楽園事務所では、岡山後楽園の新たな魅力づくりのため、公益財団法人岡山県郷土文化財団の協力の下、文献史料「御後園諸事留帳」（ごこうえんしよじとめちょう）に基づいて、後楽園で殿様が食べた料理の再現を進めてきましたが、11月中旬に、レシピ集「岡山後楽園 殿様の御馳走帖」が完成の予定となりました。

この完成を記念し、次のとおり講演会や食事会を開催しますので、お知らせします。本件については、岡山中央署記者クラブにも本日発表します。

記

1 「殿様の御馳走帖」完成発表会&試食会

- ・日時 令和5年11月20日（月）14:00～15:30
- ・場所 後楽園内 鶴鳴館
- ・参加者 後楽園魅力向上委員会委員など（一般からの参加はありません）
- ・内容 お殿様が食べた料理（5品程度）の試食
食材や調理方法など料理の特徴の解説
江戸時代の岡山藩主の食生活などについての紹介
- ・講師 食文化史研究者 岡嶋 隆司
公益財団法人岡山県郷土文化財団主任研究員 万城 あき

2 「殿様の御馳走帖」完成記念講演会

- ・日時 令和5年12月8日（金）10:00～12:00（受付：9:30～）
- ・場所 後楽園内 鶴鳴館
- ・定員 60名（事前申込優先、定員に満たない場合は当日受付あり）
- ・受講料 500円（参加者には「殿様の御馳走帖」をプレゼント）
- ・内容 食材や調理方法など料理の特徴の解説
江戸時代の岡山藩主の食生活などについての紹介
- ・講師 食文化史研究者 岡嶋 隆司
公益財団法人岡山県郷土文化財団主任研究員 万城 あき

（裏面に続く）

3 荒手茶寮「殿様御膳」食事会

- ・日 時 令和5年12月8日（金）12:30～14:00
- ・場 所 後楽園外園 荒手茶寮
- ・定 員 30名 （2の講演会の受講とセットで事前申込が必要）
- ・食事代 4,500円
- ・内 容 老舗懐石料理店「荒手茶寮」が「殿様の御馳走帖」の料理を採り入れて考案したオリジナルの「殿様御膳」を提供
- ・その他 受付は、講演会と併せて、9:30から鶴鳴館で行います
講演会終了後、荒手茶寮までは係員がご案内します（徒歩約10分）

2の講演会、3の食事会の申込方法等は別添のチラシをご覧ください。

※申込可能なホームページは、https://www.jtb.co.jp/stores/j6581-0/wa_korakuen/
又は「和の感動体験」で検索

<参考>

○「殿様の御馳走帖」に掲載した料理

- ・本膳料理 1膳
薩摩藩島津家から婿養子に迎えられた7代藩主池田斉敏（なりとし）が、祖父で薩摩藩隠居の島津斉宣（なりのぶ）が来訪した際（天保6（1835）年）、延養亭でもてなした料理。
- ・会席料理 1膳
5代藩主池田治政（はるまさ）が隠居となった後、文化9（1812）年に後楽園で開いた茶会で出された料理。
- ・献立から抽出した単品料理 全41品
（内訳）

殿様の御膳	22品	吸物、鱈、焼物、煮物、ばらずし、など
寛彰院様の御膳	8品	鉢盛、煮物、ばらずし、など
殿様からの御祝儀	11品	吸物、鉢盛、など

寛彰院（かんしょういん）

6代藩主池田斉政（なりまさ）の早世した嫡子斉輝（なりてる）の正室で、京都一条家の知姫（ともひめ）。斉輝亡き後、天保5（1834）年に岡山に帰り、本丸や西の丸で暮らした。斉政の跡を継いだ7代藩主斉敏からは藩主並みの処遇がされており、延養亭や御成御門も使用した女性で、後楽園では殿様同様の楽しみ方をしている。

（次ページに続く）

○「御後園諸事留帳」（ごこうえん しょじとめちょう）

後楽園は城の後ろにあることから、江戸時代は「御後園」（ごこうえん）と呼ばれており、明治4（1871）年に後楽園と改称。「御後園諸事留帳」は、岡山大学附属図書館所蔵池田家文庫に所蔵されている史料で、享保17（1732）年から明治5（1872）年にいたるまで御後園奉行が代々書き綴ってきた後楽園（御後園）の140年間にわたる管理記録。今回は、この文献史料から献立を抜粋した。

なお、藩主では3代藩主池田継政（つぐまさ）から10代章政（あきまさ）に当たり、後楽園を築庭した2代藩主池田綱政（つなまさ）については、別の史料に後楽園で朝御膳を食べたという記録はあっても、その献立は不明。また、藩主の献立や後楽園で客人に出す料理は城の御膳方が管理していたようで、5代治政が隠居してしばしば後楽園で茶会を開くようになった頃から献立の詳細が少しずつ後楽園の記録にも残るようになる。

この記録からは、多彩な行事や楽しみの時間、くつろぎのひと時、幕末の政情の変化がわかり、また、後楽園でとれた旬のものを食べるなど後楽園が藩主だけでなく家族、家臣団までを含めて大切な場所であったことがわかる史料となっている。

○「殿様の御馳走帖」の販売について

- ・「殿様の御馳走帖」は、公益財団法人岡山県郷土文化財団から、11月中旬に発刊されます。
- ・販売価格は500円（税込）。詳細は11月中旬以降、同財団ホームページでご確認ください。